



厚生労働省委託事業：感染症危機管理リーダーシップ人材育成事業

令和7年度IDCL(短期)を実施しました

(寄稿)危機管理・運営局 企画調整部 上級研究員 佐藤 瞳



2025年11月から2026年1月にかけて、令和7年度感染症危機管理リーダーシップ研修（短期）（以下、IDCL（短期））が開催されました。本研修には、医師・保健師・薬剤師・獣医師・歯科医師・事務職など、多様な職種を含む31名の研修生が全国から参加しました。

IDCL(短期)とは

研修目的

感染症危機管理の関連機関の業務や役割・機能を理解し、感染症危機時のリーダーシップの基礎に関して知見を深める。

研修方法

3か月のうち、毎月連続した2～3日間、計7～10日間程度、eラーニング、対面研修、実地研修、机上演習、外部講義等を受講する。

研修プログラム

eラーニング

地域の感染症危機においてリーダーシップを発揮する人材に必要な知識を学び、コンピテンシーの基礎を築く。

対面研修

eラーニングで学習した内容を実践することで、知識の深い理解・定着を促す。

実地研修

感染症危機において関連機関が果たす役割を理解する。

机上演習

感染症危機時の判断や意思決定のプロセスを実践的に学ぶ。

外部講義

感染症危機時の対応事例やリーダーシップの在り方を学ぶ。

意見交換会

研修で得た学びを振り返り、他の研修生との意見交換を通じて理解を深める。



1月16日 意見交換会の様子(研修棟5階大会議室)

11月

19・20・21日の3日間にわたり、対面研修、実地研修(国立健康危機管理研究機構 臨床研究センター、国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター)、机上演習、外部講義を実施。

実地研修(国立健康危機管理研究機構 臨床研究センター)



臨床研究センター 森野英里子先生
「自治体に知ってほしい感染症危機時の臨床研究の基礎」



実地研修(国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター)



国際感染症センター 森岡慎一郎先生
「自治体に知っておいていただきたい感染症危機管理」



AMR臨床リファレンスセンター 松永展明先生
「自治体に知ってほしいAMR 対策について」



研修の様子

12月

18・19日の2日間にわたり、机上演習、外部講義、東京検疫所 羽田空港検疫所支所見学、横浜検疫所見学を実施。



外部講義「検疫」
那覇検疫所長 井手一彦 先生

検疫所を取り巻く環境と基本業務の説明に始まり、有症者発生時の対応のプロトコルの説明、普段行われるPPE着脱練習や有症者の移送訓練の様子を紹介いただきました。
その後COVID-19パンデミック時に実際行った、武漢便や羽田空港での対応について解説いただきました。

研修生の声：
検疫所の機能や実際の動きを学ぶ機会が今までなかったのですべての内容が非常に有益だと感じました。

1月

15・16日の2日間にわたり、実地研修(国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所)、机上演習、外部講義、意見交換会を実施。



机上演習
神奈川県 健康医療局 医務担当部長 山崎元靖 先生

国からの緊急事態宣言を受け「まん延の防止に関する措置」に基づき自治体職員として考慮すべき事項の洗い出しを行い、2班ずつ措置に対する肯定派・否定派に分かれ質疑応答のロールプレイを行いました。



外部講義「行政」
鳥取県知事 平井伸治 先生

鳥取県の保健衛生業務の現状と、コロナ禍における対応についてご解説いただきました。独自の「鳥取方式」による検査体制や陽性者への迅速な対応を振り返るとともに、今後の感染症危機への備えとして自治体間・国との連携の必要性について、ご講義いただきました。